

地域での漁業の重要性を人口分析によって調べる

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡辺, 一俊, 佐伯, 公康, 高橋, 秀行 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009396

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



地域での漁業の重要さを人口分析 によって調べる

水産情報工学部

研究の背景・目的

1. わが国の漁業は衰退に向かっているが、その状況は地域によってさまざまである。
2. 漁業の活性化を目指した活動を進めるには、まず地域での漁業の特徴を理解する必要がある。

研究成果

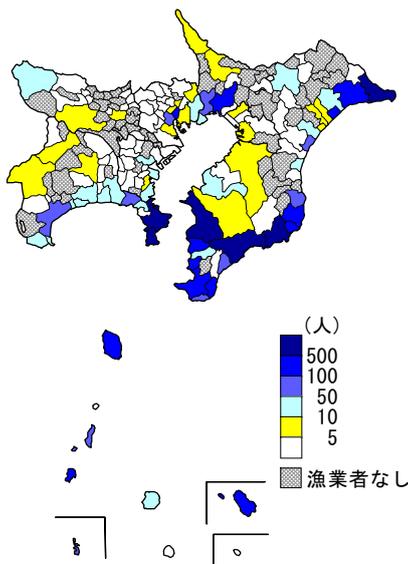
1. 国勢調査(平成 17 年)の従業地に関する統計から、特化係数* を漁業について市町村ごとに算出、地理情報システム(GIS)上で統計地図(コロプレス図)を作成した。
2. 漁業に依存する度合いの、地域による違いが明らかになった。

(*特化係数:各市町村の就業者に占める漁業者の比率(構成比)を全国の漁業者の構成比で割った値)

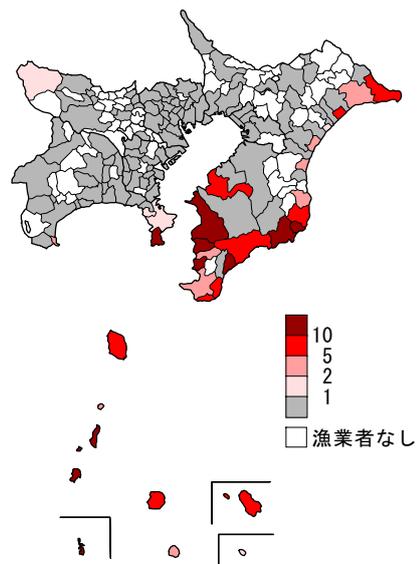
波及効果

他の産業についての特化係数も算出すれば、行政・漁業者・市民などが地域振興の事業を企画する際に、漁業の位置づけを総合的に判断する材料として利用できる。

漁業者数



漁業の特化係数



(上席研究員・渡辺一俊；水産土木工学部・佐伯公康；漁業生産工学部・高橋秀行)